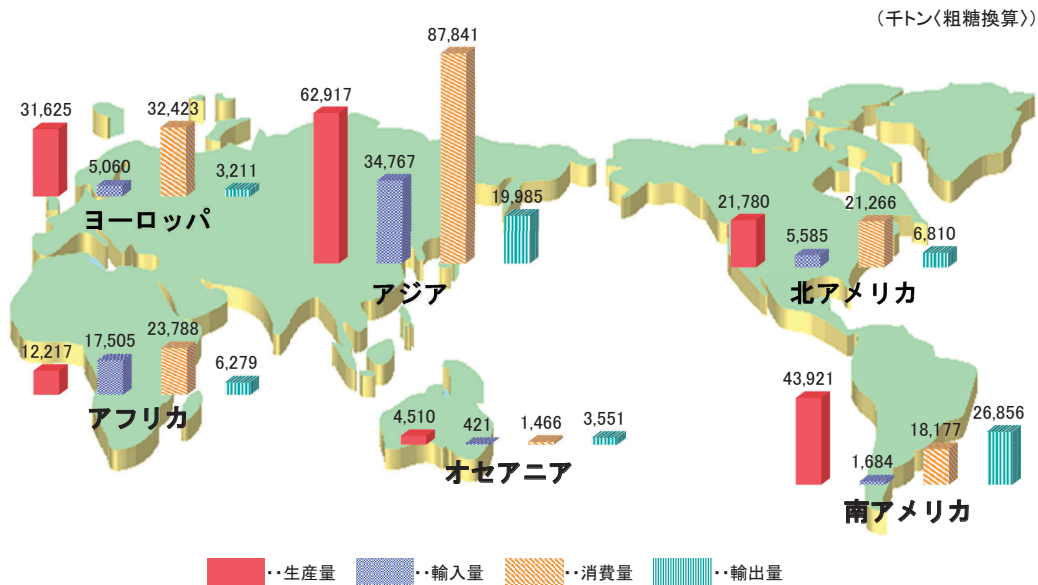


## 砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

### 1. 世界の砂糖需給（2020年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2019/20年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国、英国、ロシアほか17カ国を含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2020年3月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2019/20砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億7697万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、前年度比5.2%減）とやや減少すると見込まれている（表1）。ヨーロッパや南アメリカは前年度を上回る一方、アジアでは主要産地であるインドやタイ、中国の減産の影響により2年連続で前年度を下回る見通しである。

同年度の世界の砂糖消費量は、1億8496万トン

（同0.7%増）とわずかに増加すると見込まれている。世界の砂糖需要をけん引するアジアは昨今の景気動向を反映し、引き続き堅調に推移するほか、人口増を背景にアフリカも増加が見込まれている。一方、EUでは健康志向の高まりなどから、南アメリカでは経済成長の停滞により、わずかに減少すると見込まれている。

全体を見ると、2019/20年度は生産量が消費量を約800万トン下回り、期末在庫率は前年度比5.5ポイント減の40%と見込まれることから、砂糖の需給はやや引き締まる見通しである。なお、地域別の砂糖需給は、図1の通りである。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	54,982	160,315	56,023	164,751	56,244	50,324	30.5
2014/15	69,085	183,717	59,707	176,762	62,081	73,666	41.7
2015/16	73,666	175,955	67,776	178,700	69,077	69,620	39.0
2016/17	69,620	180,387	70,759	181,308	71,288	68,169	37.6
2017/18	68,169	195,693	65,866	180,494	67,771	81,462	45.1
2018/19	81,462	186,733	60,662	183,711	61,492	83,654	45.5
2019/20 (2019年12月予測)	81,791	179,248	63,056	185,535	64,856	73,704	39.7
2019/20 (2020年3月予測)	83,654	176,970	65,022	184,961	66,692	73,994	40.0

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

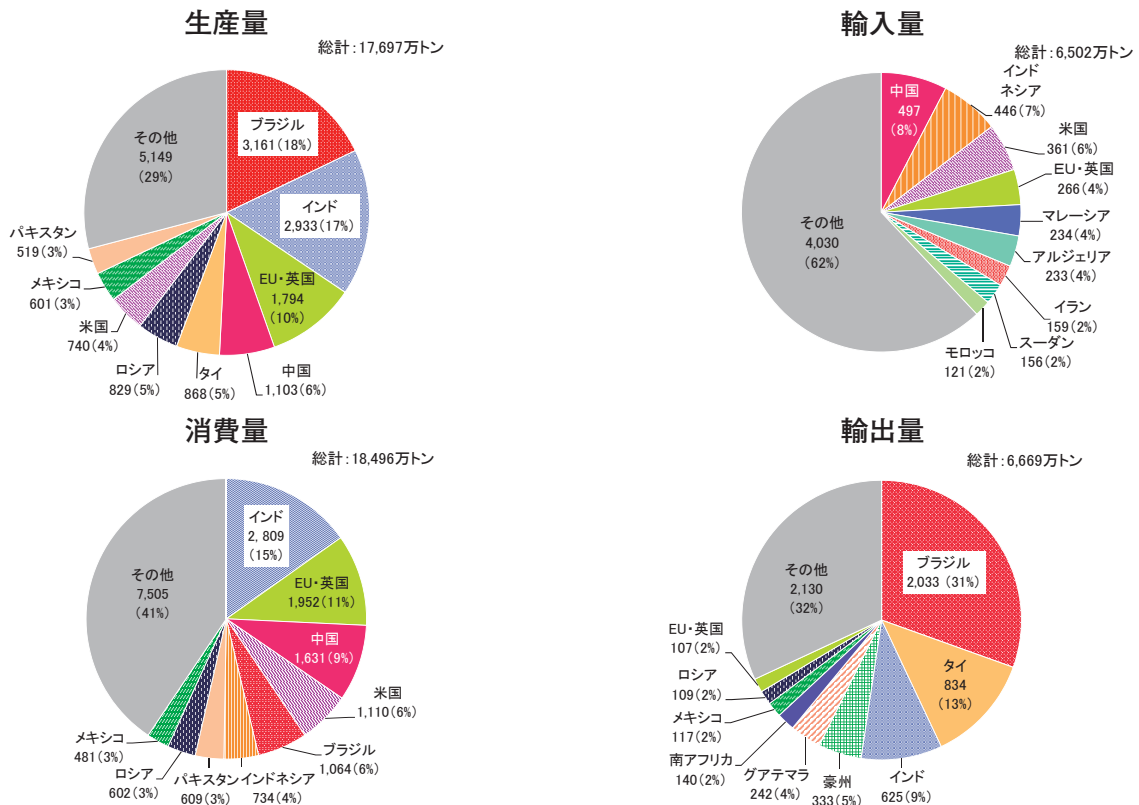
注2：2017/18年度以降は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

## 2. 主要国の砂糖需給（2020年3月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2019/20年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2020」

注1：主要国の年度は、各国の砂糖年度。

注2：主要国とその他を表示。

注3：「その他」は総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

## 【生産量】

2019/20年度の砂糖生産量を国別に見ると、ブラジルは、砂糖の国際価格の低迷を受けてサトウキビのエタノール生産への仕向け割合が前年度に引き続き6割を超えるものの、砂糖生産への仕向け割合をこれ以上減らすことが困難とみられることから、3161万トン（前年度比1.2%増）とわずかに増加し、結果として首位に振り返り見通しである（図2）。

インドは、干ばつや豪雨などの気象災害が各地で発生した影響で、2933万トン（同18.1%減）と大幅に減少し、第2位に後退する見通しである。

EU（英国を含む。以下同じ）は、てん菜生産量第1位のフランスでの減産が響き、1794万トン（同1.9%減）とわずかに減少すると見込まれている。

## 【輸入量】

2019/20年度の砂糖輸入量を国別に見ると、中国は、砂糖生産量の不足分を輸入で補っていることから、減産に伴い497万トン（前年度比2.9%増）とわずかに増加すると見込まれている。

他方、インドネシアは、砂糖の在庫量がここ10年間で最多となり、輸入糖の需要が低下すると見込まれるため、446万トン（同17.2%減）と大幅に減少すると見込まれている。

## 【消費量】

2019/20年度の砂糖消費量を国別に見ると、インドやインドネシアは、昨今の景気動向や個人消費が堅調に推移していることを踏まえ、それぞれ2809万トン（前年度比2.0%増）、734万トン（同2.3%増）とわずかに増加すると見込まれている。

他方、長らく世界の砂糖需要をけん引してきた中国は近年、砂糖消費が頭打ち傾向となっており、1631万トン（同1.3%減）、EUは健康志向の高まりなどを背景に消費量が伸び悩み、1952万トン（同0.7%減）と、ともにわずかに減少すると見込まれている。

## 【輸出量】

2019/20年度の砂糖輸出量を国別に見ると、ブラジルは2033万トン（前年度比3.1%減）とやや減少すると見込まれる。第2位のタイは、砂糖生産量の大幅な落ち込みに伴い、834万トン（同20.1%減）と大幅に減少すると見込まれている。

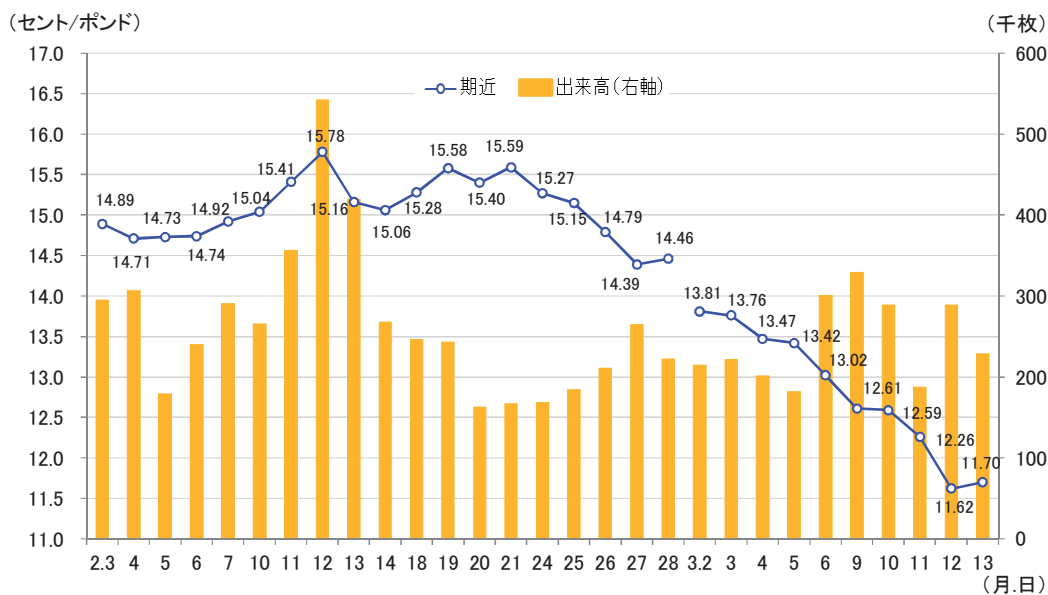
インドは、砂糖の過剰在庫の解消に向け、政府が補助金政策などを通じて輸出促進に努めていることで、625万トン（同13.6%増）とかなり大きな増加が見込まれている。

### 3. 国際価格の動向

#### ニューヨーク粗糖先物相場の動き (2/3 ~ 3/13)

~2月中旬に2年9カ月ぶりの高値を付けるも、下旬以降は著しく下落し11セント台へ~

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)  
注：2月は期近3月限、3月は同5月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2020年2月の推移を見ると（3月限）、3日は、2019/20年度のインドの砂糖生産実績やEUの砂糖輸出実績が前年同期を大幅に下回っているとの発表を受けて、1ポンド当たり14.89セントの値を付けた<sup>(注1)</sup>（図3）。4日はリアル（ブラジルの通貨）安が影響し、同14.71セントと下落した<sup>(注2)</sup>。5日以降は、タイでも砂糖の減産見通しが報じられるなど世界的な砂糖の供給不足感から上昇傾向で推移し、10日は同15.04セントの値を付けた。12日は、原油価格の上昇も相場を下支えし<sup>(注3)</sup>、同15.78セントまで急伸し、2年9カ月ぶりに15セント台後半の値を付けた。13日は、前日の高値を受けて売りが先行し、同15.16セントまで急落した。19日は、タイの砂糖生産実績が前年同期比14%減となったことを受けて、同15.58セントと値を上げた。20日は下落

したものの、21日は、米国で2020/21年度産のてん菜の植え付けが遅れると見込まれたことで同15.59セントと再び上昇した。24日以降は、原油価格の下落やリアル安に伴い下落し、27日は、原油価格の下落やリアルの最安値が更新されたことで、同14.39セントの値を付けた。28日は、国際砂糖機関（ISO）が2019/20年度の砂糖供給予測を下方修正したことを受け、同14.46セントと値を上げた。

期近在5月限に切り替わった3月2日は、リアル安やブラジルの2月の砂糖輸出量が前年度より増加したとの発表が影響し、同13.81セントと約2カ月ぶりに13セント台を付けた。その後も原油価格の下落やリアル安によって続落し、9日は同12.61セントの値を付けた。10日は、原油価格とリアルの回復を受けて横ばいで推移したが、11日以降、新

型コロナウイルス感染症（COVID-19）による世界的な景気後退への懸念が高まったことで原油価格の下落とリアル安が加速し、12日は同11.62セントと約半年ぶりに12セント台を割り込んだ。13日は、反発したものの、同11.70セントと11セント台にとどまった。

（注1） 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

（注2） 粗糖はドル建てで取引されるため、ドルに対してリアル安になるとブラジルの製糖業者が粗糖輸

出で得る収入は増加する。従って、製糖業者の輸出意欲が高まり、需給緩和の可能性が強くなることから、商品相場は下落する傾向にある。

（注3） 一般に、原油価格が下落すると、代替燃料であるバイオエタノールの需要が低下する。バイオエタノールの需要が低下すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが減るため、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の供給が増える方向に作用する。その結果、需給緩和の懸念が強まり、商品相場は下落する傾向にある。

## 4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2020年3月時点予測）

本稿中の為替レートは2020年2月末日TTS相場の値であり、1米ドル=110（110.43）円、1ポーランド・ズロチ=29.04円である。

### ブラジル

#### 2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：859万ha（前年度比0.7%減）

生産量：6億4110万トン（同3.3%増）

##### 【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：3161万トン（同1.2%増）

輸出量：2033万トン（同3.1%減）

#### 2019/20年度、生産量はわずかに増加するものの、輸出量はやや減少する見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作する動きが一部で見られるため、859万ヘクタール（前年度比0.7%減）とわずかに減少するが、生育期間を通じて天候がおおむね良好で、生育が順調であることから、サトウキビ生産量は6億4110万トン（同3.3%増）とやや増加すると見込まれる（表2）。

長期化する砂糖の国際価格低迷などの影響を受けて、多くの製糖業者でエタノール生産を強化する動きが目立つものの、砂糖とエタノールの仕向け割合

は前年度と同水準で落ち着くとみられることから、砂糖生産量は3161万トン（同1.2%増）とわずかに増加し、輸出量は2033万トン（同3.1%減）とやや減少すると見込まれる。

#### 2020/21年度の砂糖生産量、原油価格や世界的な砂糖不足などを受けて前年度増の見込み

ブラジルの大手製糖企業Raízen（ハイゼン）社の役員であるRichardo Mussa氏は3月9日、同社はすでに2020/21年度の砂糖生産量を前年度から増加させる計画を立てており、原油価格の下落を受けてサトウキビの製糖への仕向け割合をさらに増やす可能性があるとして述べた。同氏は、2020/21年



度のブラジルの砂糖生産量は今年度と比較して300万～600万トン程度増加するとみている。

また、同国のコンサルタント会社の多くは、サトウキビの主産地である中南部地域の2020/21年度における砂糖生産量が3000万トンを超え(注)、サトウキビの砂糖への仕向け割合は40～43%程度に増加するとの見通しを示している。世界的な砂糖不足が見込まれる中、ブラジルの通貨レアルの下落も製糖業者の輸出意欲を高める要因となり、砂糖の増産を後押しするとしている。

(注) ブラジル国家食料供給公社 (CONAB) が2月に発表した資料によると、2019/20年度における中南部地域の砂糖生産量は2735万トン(前年度比3.2%増)と見込まれている。

## 2020年2月の砂糖輸出量、前年同月比12%増

ブラジル経済省が3月2日に発表した統計によると、2月の砂糖輸出量は131万トンと、製糖期が終盤を迎えているため前月からは18.1%減少したものの、前年同月と比較すると12.4%増とかなり大きく増加した。一方、輸出金額は3億8884万ドル(427億7240万円、前年同月比14.6%増、前月比17.2%減)と、前年同月と比較してかなり大きく増加した。2019年4月から翌2月の累計輸出量は前年同期比6.5%減となっているものの、2020年以降の累計輸出量は同30.1%増の291万トンと大幅に増加した。ブラジル国家食料供給公社 (CONAB) は、2020年初旬に見られた砂糖の国際価格の上昇やブラジルの通貨であるレアル相場下落が砂糖輸出量の回復を後押しするのではないかとみている。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

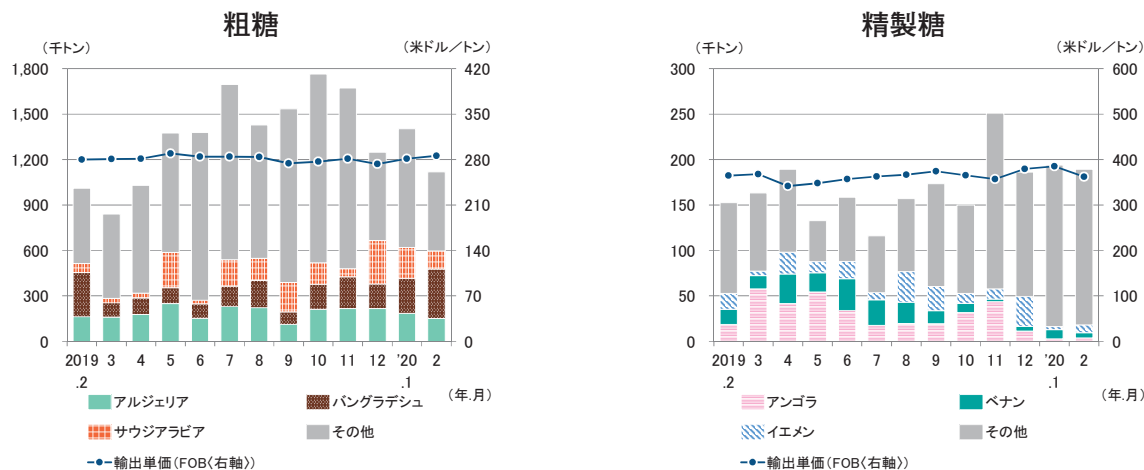
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (2月予測)	2019/20 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,488	8,617	8,649	8,587	8,587	▲0.7	
サトウキビ生産量	651,841	641,066	620,825	641,100	641,100	3.3	
砂糖	生産量	41,670	41,517	31,225	31,608	31,609	1.2
	輸入量	4	2	3	3	3	▲9.6
	消費量	11,275	10,852	10,635	10,635	10,635	0.0
	輸出量	30,117	31,026	20,969	20,328	20,329	▲3.1
	期末在庫量	1,022	663	287	936	936	225.6
	期末在庫率	2.5	1.6	0.9	3.0	3.0	2.1ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## (参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

## インド

### 2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：463万ha（前年度比10.1%減）

生産量：3億5851万トン（同12.1%減）

#### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：2933万トン（同18.1%減）

輸出量：625万トン（同13.6%増）

### 2019/20年度、輸出量はかなり大きく増加する見込み

サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州で発生した圃場の浸水被害などが影響し、2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は463万ヘクタール（前年度比10.1%減）とかなりの程度減少し、サトウキビ生産量は3億5851万トン（同12.1%減）とかなり大きく減少すると見込まれる（表3）。

糖みつなどを利用したエタノールの生産量は当初の予測を下回って推移しているものの、前述のサトウキビ生産量の減少や長雨によるサトウキビの糖度低下の影響を考慮すると、砂糖生産量は2933万トン（同18.1%減）と大幅に減少すると見込まれる。2月に輸出枠が再分配されたことや、今後数カ月でインドネシアへの輸出が行われる可能性を受けて、輸出量は前月の予測から17.5%上方修正され、625万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

### インドネシア、国内需要を満たすためインドから砂糖を輸入する意向

インドネシア農業省は2月27日、5月までにインドから白糖13万トンを輸入する考えを明らかにした。インドネシアのサトウキビの収穫は通常5月から始まるが、2019年の干ばつによってサトウキビの植え付けが遅れたことで、収穫開始時期が2020年6月の下旬にずれこみ、現在の砂糖在庫量では国内の砂糖需要を満たせない可能性があるため

である。

また、インドネシアは輸入粗糖の基準をICUMSA（国際砂糖分析法統一委員会）色価 1200としていたが、同400～800のインド産粗糖を輸入できるようにするため、輸入粗糖の基準を同600～1200へ緩めたほか、インド産粗糖の輸入関税率を約5%まで引き下げた。しかし、業界関係者によると、基準の変更によって同国で既に発行された1月～6月分の輸入許可証を修正する必要が生じ、インドからの輸入を直ちに開始できない状況にある。また、インドの業界関係者は、国内の粗糖在庫量が多くないことから、今後輸出できる粗糖の量は多くても25万トン程度になるとみている。

### 大手飲料メーカーのインド法人、2年以内に飲料の糖類含有量を削減する計画を発表

世界的な大手飲料メーカーのインド法人は3月2日、今後2年間で飲料に含まれる糖類の量を削減する計画を発表した。一般的に、炭酸飲料には100ミリリットル当たり10グラム程度の糖類が含まれるが、同社の代表は、2年以内に糖類含有量を同6グラム以下に抑える目標を掲げていることを明かした。同社はここ1年で飲料の糖類含有量の削減に取り組んできたが、今後も低カロリーを訴求した商品の数を既存ブランドの中で増やしていくほか、無糖飲料の新規開発にも力を入れていくという。

表3 インドの砂糖需給の推移

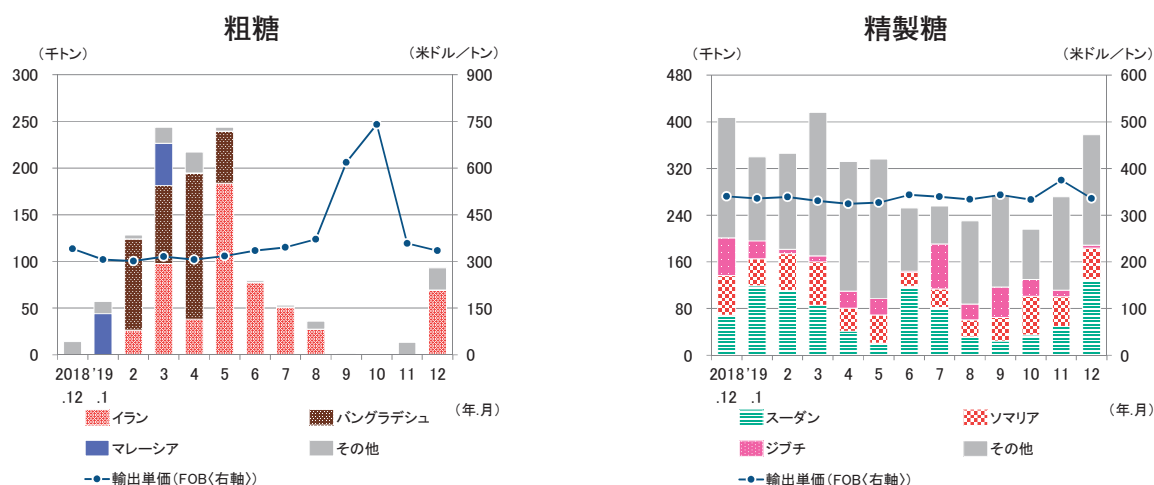
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (2月予測)	2019/20 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	4,327	4,826	5,148	4,605	4,628	▲ 10.1
サトウキビ生産量	323,556	408,655	407,695	359,227	358,514	▲ 12.1
砂糖	生産量	21,848	35,043	35,798	29,544	▲ 18.1
	輸入量	2,536	2,307	646	800	31.6
	消費量	26,568	27,232	27,537	28,086	2.0
	輸出量	2,233	2,361	5,504	5,320	13.6
	期末在庫量	3,952	11,710	15,115	11,945	▲ 27.5
	期末在庫率	13.7	39.6	45.7	35.8	31.9

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

## 中国

### 2019/20年度(10月～翌9月)の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：118万ha(前年度比3.5%減)

生産量：7769万トン(同1.1%減)

#### 【てん菜】

収穫面積：21万ha(同12.4%減)

生産量：1090万トン(同6.6%減)

#### 【砂糖(甘しや糖およびてん菜糖)】

生産量：1103万トン(同5.2%減)

輸入量：497万トン(同2.9%増)

### 2019/20年度、輸入量はわずかに増加する見込み

2019/20砂糖年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は118万ヘクタール(前年度比3.5%減)とやや減少し、天候不順で停滞していたサトウキビの生育状況に回復の兆しが見られるものの、収

穫面積の減少による影響を相殺しきれず、サトウキビ生産量は7769万トン(同1.1%減)とわずかに減少すると見込まれる(表4)。てん菜については、収穫面積は21万ヘクタール(同12.4%減)とかなり大きく減少すると見込まれる。主産地である内モンゴル自治区でヨトウムシなどによる害虫被害が発



生したものの、糖度が前年度よりも高いことが収穫面積の減少を一部相殺し、てん菜生産量は同6.6%の減少にとどまると見込まれる。

これに伴い、砂糖生産量は1103万トン（同5.2%減）とやや減少し、その不足分を賅うため、輸入量は497万トン（同2.9%増）とわずかに増加すると見込まれる。

### 広西チワン族自治区や雲南省で、新型コロナウイルスによる労働力不足などが砂糖生産に影響

中国糖業協会によると、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の影響で季節労働者の不足や物流の停滞が生じ、中国南部のサトウキビ生産地で

ある広西チワン族自治区（以下、「広西」という）や雲南省ではサトウキビの収穫作業や次期のサトウキビの植え付け、製糖工場の操業が滞っている。搬入されるサトウキビの量が不足し、製糖工場の操業率が低下しているため、製糖コストの上昇も懸念されている。

現地情報などによると、2020年3月4日時点の砂糖生産量は、広西で574万トン（前年同期比33.7%増）、雲南省で99万トン（同0.5%増）と見込まれている。しかし、広西の半数以上の製糖工場は3月5日までに操業を終えており、2019/20年度は平年より早く終了するとみられる。

表4 中国の砂糖需給の推移

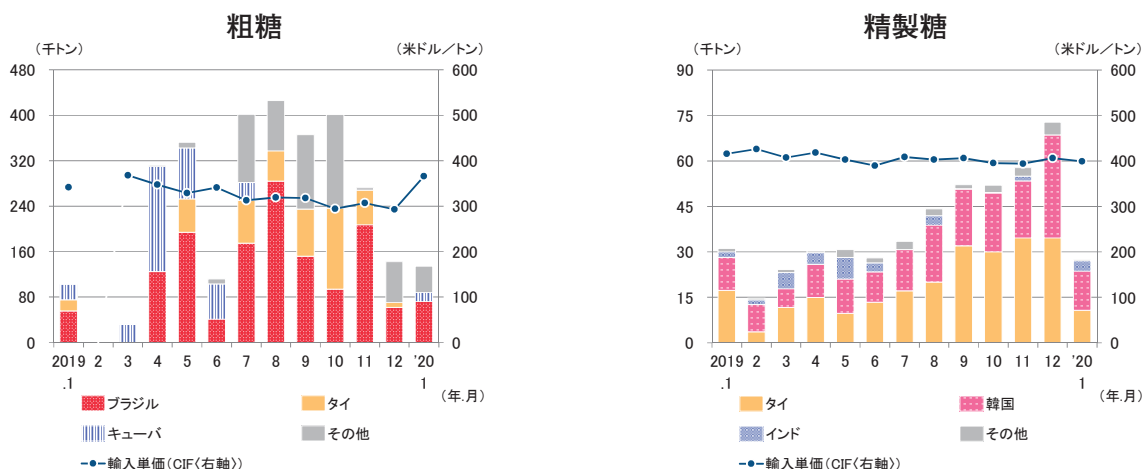
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (2月予測)	2019/20 (3月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,178	1,231	1,219	1,176	1,176	▲ 3.5
サトウキビ生産量	73,690	76,780	78,590	77,690	77,690	▲ 1.1
てん菜収穫面積	168	186	243	213	213	▲ 12.4
てん菜生産量	8,820	9,590	11,670	10,900	10,900	▲ 6.6
砂糖	生産量	10,041	11,147	11,640	11,030	▲ 5.2
	輸入量	5,715	6,118	4,830	4,987	2.9
	消費量	16,847	16,414	16,522	16,305	▲ 1.3
	輸出量	146	195	228	212	▲ 14.1
	期末在庫量	10,689	11,345	11,064	10,564	▲ 4.5
	期末在庫率	62.9	68.3	66.1	64.0	64.0

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

### （参考）中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

注3：2019年2月の粗糖は、輸入実績がなかった。

## E U

### 2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【てん菜】

収穫面積：161万ha（前年度比5.7%減）  
生産量：1億1466万トン（同3.1%増）

#### 【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1794万トン（同1.9%減）  
輸出量：107万トン（同43.9%減）

### 2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は161万ヘクタール（前年度比5.7%減）とやや減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、深刻な干ばつに見舞われた前年度からの反動で1億1466万トン（同3.1%増）とやや増加すると見込まれる。

前年ほどではないものの平年より高温・乾燥した状況が続いた、EU最大の砂糖生産国フランスにおけるてん菜生産の落ち込みが響き、砂糖生産量は1794万トン（同1.9%減）とわずかに減少すると見込まれる。生産量が消費量を下回ると予想されることから、輸出量は107万トン（同43.9%減）と大幅に減少すると見込まれる。

### ポーランド、「砂糖税」の導入は2021年に延期か

ポーランド政府は2月6日、肥満人口の増加を抑制するために、糖類を含む飲料に課税する法案を閣議決定した。しかし、今般の新型コロナウイルス感

染症（COVID-19）の発生によって経済が深刻な影響を受けるとの懸念が強まったことから、同政府は3月10日、法案が成立しても課税開始を2021年まで猶予する考えを示した。

この法案は、糖類を含む飲料について、1リットル当たり0.5ズロチ（15円）が一律で課税され、カフェインやタウリンを含む場合は同0.1ズロチ（3円）が上乗せされる。さらに、糖類含有量が100ミリリットル当たり5グラムを超過する飲料の場合は、1グラムを超過するごとに1リットル当たり0.05ズロチ（1.5円）が課税される仕組みとなっている。

同国保健省は、これによる税収の96.5%を基金として積み立て、糖尿病や心血管疾患、ガンなどの疾病対策に充てる計画を発表している。

LMC Internationalによると、同国の1人当たりの年間砂糖消費量は約50キログラムと、日本人と比べて約3倍の砂糖が消費されている。また、国連食糧農業機関（FAO）によると、18歳以上のポーランド国民の肥満割合は年々増加しており、2016年の時点で約4人に1人が肥満とされる。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

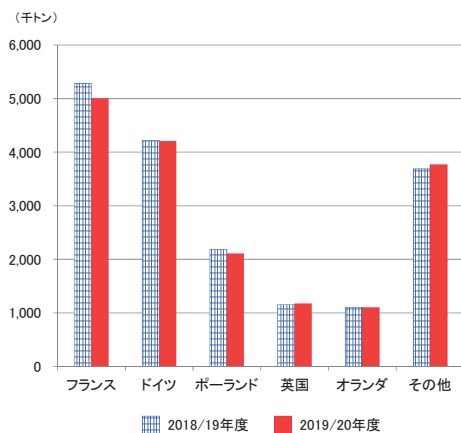
年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (2月予測)	2019/20 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,466	1,731	1,709	1,612	1,612	▲ 5.7	
てん菜生産量	107,986	139,453	111,258	114,548	114,656	3.1	
砂糖	生産量	17,069	21,734	18,288	17,889	▲ 1.9	
	輸入量	3,117	1,731	2,530	2,654	5.0	
	消費量	19,177	19,218	19,653	19,445	▲ 0.7	
	輸出量	1,510	3,809	1,909	1,098	▲ 43.9	
	期末在庫量	2,293	2,731	1,986	1,984	1,986	0.0
	期末在庫率	11.1	11.9	9.2	9.7	9.6	0.4ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

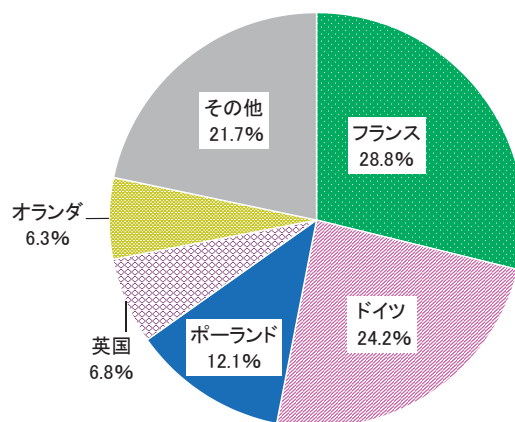
(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2019年12月時点)

EUの砂糖生産見通し



資料：欧州委員会  
注1：精製糖換算。  
注2：2018/19年度は暫定値、2019/20年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会  
注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

## 5. 日本の主要輸入先国の動向 (2020年3月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピンで、2019年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が81.4%（前年比10.2ポイント増）、タイが18.6%（同9.5ポイント減）と、この2カ国でほぼ100%を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカおよびフィリピンについては、半年に1回の報告（南アフリカは3月号および10月号、フィリピンは4月号および9月号を予定）とする。

本稿中の為替レートは2020年2月末日TTS相場の値であり、1タイ・パーツ=3.55円である。

### 豪州

#### 2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比3.7%減）

生産量：3004万トン（同7.5%減）

##### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：428万トン（同9.2%減）

輸出量：333万トン（同2.9%減）

#### 2019/20年度、砂糖生産量、輸出量ともに減少する見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は36万ヘクタール（前年度比3.7%減）とやや減少し、夏の記録的な猛暑による影響で生育の遅れが見られることから、サトウキビ生産量は3004万トン（同7.5%減）とかなりの程度減少す

ると見込まれる（表6）。

砂糖生産量はサトウキビの減産に加え、平均糖度が前年度を下回る水準で推移していることも影響し、428万トン（同9.2%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。砂糖の国際価格の低迷で輸出を控える動きが見られることから、輸出量は333万トン（同2.9%減）とわずかに減少すると見込まれる。

## クイーンズランド州の砂糖生産量、過去8年間で最低となる

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）は2月17日、2019/20年度のサトウキビと砂糖の生産実績を公表した。同国産砂糖の9割以上を生産するクイーンズランド州のサトウキビ収穫面積は、前年度比4.5%減の35万ヘクタールとなった。単収は、同州のすべての地域で過去8年間の平均を下回り、州全体では1ヘクタール当たり81.25トン（前年度比2.3%減）と減少した。面積と単収の減少によって、サトウキビ生産量は2844万トン（同6.7%減）とかなりの程度減少した。可製糖率も14.18（同

1.9%減）とわずかに低下したことで、砂糖生産量は408万トン（同8.8%減）と、過去8年間で最も少ない生産量となった。同協議会は、同州の砂糖産業にとって2019/20年度は、生産量の落ち込みに加えて砂糖の国際価格の低迷に苦しむ厳しい年となったと評した。

2020/21年度については、最近の国際価格の上昇や降雨量の増加は好ましい状況といえるものの、ある地域では降雨のタイミングが遅く、サトウキビの生育を促進しないとみられるため、砂糖生産量の回復はあまり期待できないと見込んでいる。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (2月予測)	2019/20 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	368	376	379	366	364	▲ 3.7
サトウキビ生産量	36,506	33,344	32,493	30,044	30,044	▲ 7.5
砂糖	生産量	4,797	4,463	4,717	4,283	▲ 9.2
	輸入量	68	29	19	20	7.0
	消費量	1,159	1,112	1,068	1,090	0.4
	輸出量	4,004	3,601	3,426	3,130	▲ 2.9
	期末在庫量	969	747	989	1,072	▲ 9.8
	期末在庫率	18.8	15.8	22.0	25.4	20.3

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：156万ha（前年度比15.0%減）

生産量：7401万トン（同43.5%減）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：868万トン（同43.8%減）

輸出量：834万トン（同20.1%減）

## 2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作する動きが見られるため、156万ヘクタール（前年度比15.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれている。2019年初頭の降雨量が少なく、

サトウキビの生育が停滞していることから、サトウキビ生産量は7401万トン（同43.5%減）と大幅に減少すると見込まれる（表7）。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は868万トン（同43.8%減）と大幅に減少すると見込まれる。砂糖の減産に伴い、輸出量は834万トン（同20.1%減）と大幅に減少すると見込まれる。

## 干ばつが6月まで長引いた場合、サトウキビ生産への影響は甚大

タイのEconomic Intelligence Center (EIC) (注1) は3月2日、2020年の干ばつがタイの農産物に及ぼす影響を発表し、主要な農産物のうち、サトウキビと米(裏作)の生産量は前年度と比較して大幅に減少する可能性があるとした。

同国では2019年から干ばつが続いており、2020年2月時点のダム貯水率は、中部地方が最も低く19%、北部や東北部も過去5年間の平均を下回る約40%となっている(注2)。EICによると、最悪の場合、2019/20年度のサトウキビ生産量は前年度比43%減の約7500万トンと見込まれるほか、干ばつが6月まで長引けば、次年度(2020/21年

度)のサトウキビ生産にも影響を与えるとみられる。

また、サトウキビ価格は供給不足によって上昇し、2019/20年度の期末価格は1トン当たり800バーツ(2840円)を超えるものの、生産量の減少が価格上昇分を打ち消すことで農家の収入は減少すると予測されている。EICによると、2020年のサトウキビ農家の収入は前年と比較して35%減少すると見込まれ、政府による技術支援や他作物への転作の推進などが実施される可能性があるとしている。

(注1) タイの大手商業銀行であるサイアム商業銀行のコンサルタント部門。

(注2) EICによると、サトウキビ栽培地域の内訳は、東北部が約45%、中部が約30%、北部が約25%と予測されている。

表7 タイの砂糖需給の推移

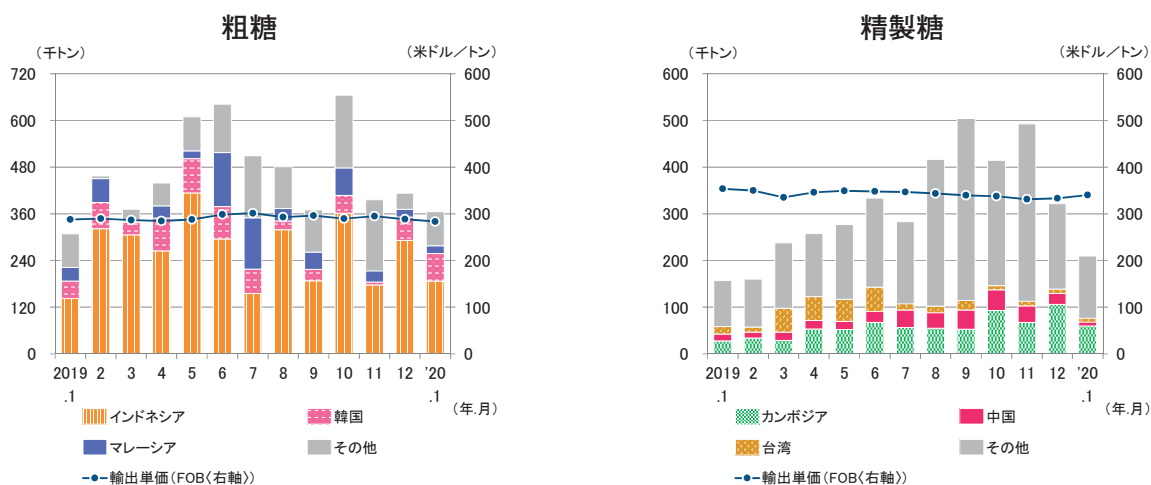
(単位:千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (2月予測)	2019/20 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,578	1,790	1,835	1,606	1,560	▲ 15.0	
サトウキビ生産量	92,951	134,929	130,970	83,019	74,014	▲ 43.5	
砂糖	生産量	10,657	15,586	15,457	9,911	8,680	▲ 43.8
	輸入量	0	6	3	3	3	0.0
	消費量	3,283	3,347	3,737	3,866	3,866	3.5
	輸出量	7,393	10,077	10,439	9,047	8,342	▲ 20.1
	期末在庫量	3,951	6,119	7,402	4,402	3,876	▲ 47.6
	期末在庫率	37.0	45.6	52.2	34.1	31.7	20.5ポイント減

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2020」

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

### (参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料: 「Global Trade Atlas」

注1: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2: 国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。



## フィリピン

### 2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：41万ha（前年度比0.8%減）

生産量：2175万トン（同0.1%減）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：203万トン（同2.4%減）

輸出量：14万トン（同31.0%増）

### 2018/19年度、生産量はほぼ横ばいで推移する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、他作物への転作が影響し、41万ヘクタール（前年度比2.0%減）とわずかに減少すると見込まれる（表8）。単収が前年度より落ち込むことで、サトウキビ生産量は2177万トン（同9.2%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。しかし、糖度の高さがサトウキビ生産量の減少を相殺し、砂糖生産量は207万トン（同0.4%減）とほぼ横ばいで推移すると見込まれる。

### 2019/20年度、生産量はわずかに減少し、輸出量は大幅に増加する見込み

2019/20砂糖年度のサトウキビ収穫面積は41万ヘクタール（前年度比0.8%減）、サトウキビ生産量は2175万トン（同0.1%減）とともにほぼ横ばいで推移すると見込まれる。しかし、平年より降雨量が多く、日照時間が短かった影響でサトウキビが低糖度傾向にあることから、砂糖生産量は203万トン（同2.4%減）とわずかに減少し、過去10年間で最も少なくなると見込まれる。輸出量は、平年を下回る水準であるものの、前年度の輸出の落ち込みの反動で14万トン（同31.0%増）と大幅に増加すると見込まれる。

表8 フィリピンの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (2月予測)	2019/20 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	421	418	410	406	406	▲ 0.8
サトウキビ生産量	28,052	23,975	21,768	23,844	21,750	▲ 0.1
砂糖	生産量	2,506	2,083	2,074	2,025	▲ 2.4
	輸入量	123	283	616	413	▲ 43.7
	消費量	2,277	2,258	2,281	2,371	1.0
	輸出量	283	205	108	142	31.0
	期末在庫量	594	497	798	733	▲ 9.4
	期末在庫率	23.2	20.2	33.4	29.2	29.6

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。